

(平成 24 年 12 月試験研究業務月報)

試験研究課題：石灰消毒処理家畜ふん尿の堆肥化及び施用技術の確立

研究

石灰を多量に含む家畜ふんの堆肥化

口蹄疫などの特定家畜伝染病が発生すると、家畜ふん尿は石灰処理されるため、解除後も利用法に困り発生農場に溜まると想定されます。そこで、当センターでは石灰を多量に含んだ家畜ふん尿の堆肥化実験に本年 9 月から取り組んでいます。

実験では、高さ 2 m に堆積した牛ふんの表面を多量の石灰(牛ふん重量の 4 %)でカバー、さらにシートで覆って 42 日間貯留し、消毒後の状態を再現、その後、貯留した牛ふんを切り返して堆肥化を行いました。

その結果、堆肥内部の温度は 4 回目(28 日目)の切り返しまでは 50℃以上を維持し、石灰を多量に含む牛ふんでも発酵消毒に相当する温度の上昇が確認でき、堆肥化利用の道が開けました。

今後は、多量の石灰を含んだ家畜ふんの堆肥化技術を確立し、肥効性を確認することにより、口蹄疫等特定家畜伝染病対策の円滑な実施を支援します。

